

④ 甲子園大会での得点傾向

県総合体育センターの方で最近の甲子園大会における得点傾向を調べてもらいました。図8は最近2年間の得点傾向をまとめたものです。全試合の平均得点は4～5点の範囲にあります。また勝ったときの平均得点は6～7点であり、負けたときの平均得点は2点台になっています。県代表校も最近負けているので2点台の得点になっています。この結果からわかるのは甲子園で勝ち上がっていくためには6点以上取れる攻撃力が必要であるということだと思われます。特にベスト4に残るチームは7点以上得点しています。攻撃力はバッティングと直接結びつくので、このようなデータからもバッティング能力の向上が重要であることがわかります。

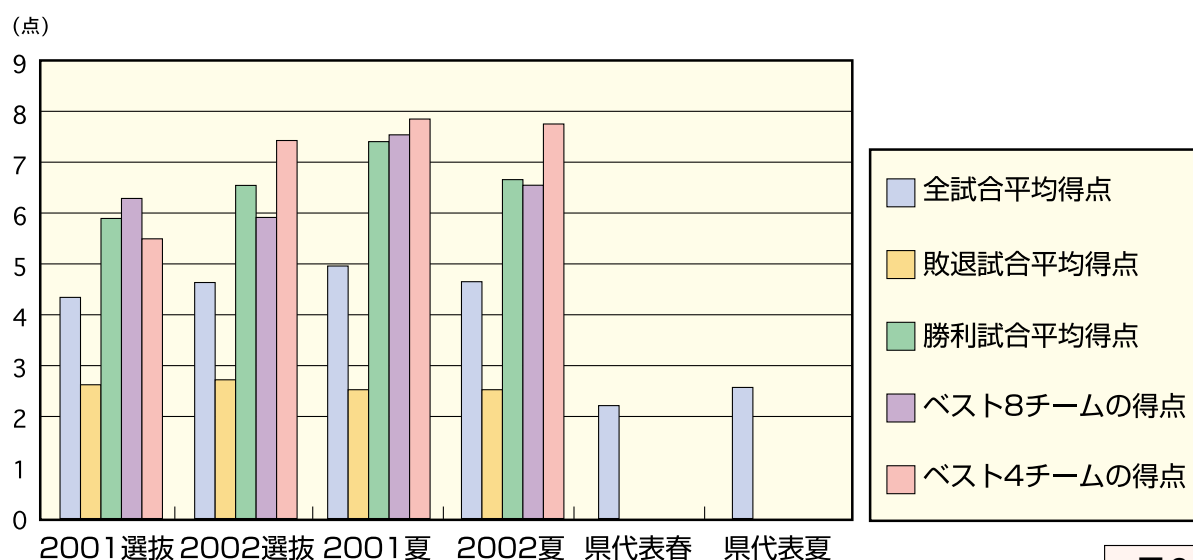


図 8

⑤ 投手の投球傾向

昨年夏の県大会準決勝での投手の球速および秋季北信越大会での福井県代表校と石川県代表校の球速を図9に示しました。富山県の投手は最高速が130キロ以下でしたが福井県代表校と石川県代表校は140キロ近い球速を示しています。また石川県代表校の球速の分布を図10に示しました。石川県代表校の投手は分布の山が二つあることがわかります。一つは130キロ後半で、もう一つは110キロ台に山があります。注目すべきは120キロ台の球速がないことです。このことから、石川県代表校の投手は球速にメリハリがあり、速いボールと遅いボールがはっきりしていると考えられます。一方富山県の投手も球速の分布の山が二つあるのですが、速い球速分布でも120キロ台なので石川県代表校と比較するとメリハリがなく、速い（速く見える）ボールが少ないと思われます。どちらの投手も遅いボールの速度分布はほぼ同じなので、富山県の投手は最高速度を上げることで投球の幅が広がるものと思われます。